

第 2 回 摂津市中学校給食検討委員会の概要について

開催日時 : 平成 24 年 12 月 19 日 (水) 15 時 ~ 16 時 30 分

開催場所 : 摂津市役所新館 3 階 301 会議室

出席委員 : 学識経験者代表 田中章博 園田充子 各委員
保護者代表 貫山育枝 松原隆文 各委員
中学校校長会代表 筒井 豊 委員
小学校栄養教諭代表 西村ゆり子 委員
欠席委員 : 摂津市学校給食会会長 敷本 悟 委員
食育担当中学校教諭代表 濱西 加代子 委員

議 事 :

(1) 第 1 回検討委員会概要説明

中学校給食実施にかかる意見 (報告)

第 1 回 摂津市学校給食検討委員会の概要について

○ 上記資料をもとにこれまでの検討経過について事務局より説明

(2) 実施方式決定に向けた論点 (課題) について

- ① 保護者にとっての中学校における昼食の在り方について
- ② 学校現場における中学校給食の在り方
- ③ 財政面から見た中学校給食について

(主な意見等)

○ 家庭で子どもと一緒に話をしたりしながら、コミュニケーションをもちながら作れるってというのが、家庭の弁当のいいところ。中学校の 3 年間くらいだったら、子どものためにやってあげたいっていうのと、子どもにも作ってきたっていうのをわかってほしいっていうお弁当肯定の保護者の意見が、PTA 協議会の中であがった。反対に、共働きの中で弁当を作っていく負担のことや、他県が給食を実施されている中で、学校本来の在り方としては給食であってほしいという意見もあった。

○ お弁当のメリットも非常に大きいということは確かで、栄養面や様々なことを考えてお弁当を作る楽しみがあるとかいう親御さんの意見もあり、それこそ食育の完成かなという感じにも思える。ただ、毎日作るというのは負担が大きく、作りたくても作れない場合

もある。中学生にとって食べることは大事なことなので、全員が満足できる方法として一番いい形をとらなければいけないのではないかなという感じがしている。

○ 現状のデリバリーにしても、注文が頼みにくい中で、もっと注文がしやすい雰囲気になれば、親の負担や栄養面も考えていけるのだろうっていう意見も出た。

○ 時間や苦勞をかけて作るお弁当は愛情があるのだけれども、忙しいときや厳しいときは、デリバリーも含めて給食があったら楽だなっていう、作るよりも質の高い良いものがあるので、そういったものを用意してもらった方がいいのかなという意見もある。

○ 中学校に給食が入ってくる不安と、食育という良さを天秤にかけてしまう。食育という部分だけをみたときに、中学校の教職員の中で、是非やってほしいという声が出てこない。

○ 他府県の荒れた学校などは給食指導が大変だとか食に対するいたずらなどに気を使ってしまうなどの、新たな問題や心配があると聞き、不安がある。

○ 中学校はクラブ活動が教育的な価値がある中で、クラブ活動の時間を削ってまで昼食時間を長くする価値があるのかなという事を、教員は思っているのかもしれない。

○ 中学生が準備に慣れたとしても今の時間では済まないと思う。時間がなく先生方も今までやってなかったことをすることで不安に思う気持ちもわかる。ただ、栄養士としては、中学校も小学校と一緒に完全給食方式でやってほしいと思う。給食を通して食育に携われたらなという思いを、栄養士はもっている。

○ 小学校は給食というところにすごくエネルギーを割いており、食育の時間をちゃんと獲得できるような時間帯が設定されている。

○ 長年中学校給食している自治体に視察に行くとか、現場を見てどういう形になっているのかを見ていった方がいいのではないかなと思う。

○ 給食指導は絶対に必要だと思う。摂津市の場合、お昼休みの時間が短すぎるので、もう少し長くすることは可能なのかなどという検討も必要だと思う。今のままの時間で給食を始めると、好きなものだけを食べてあとは全部残すなど、そういった形になってしまうような気がする。

○ 小学生の段階で食育が完成するとは思えない。どこかの段階で、今後自分で選択できる力、食を選択する力やそれを供給できる力をつけてほしいと思う。

○ 同じ指導が必要になってくるのだったら、全員喫食のほうが良いと思う。

○ 全員喫食だったら時間はかかるかもしれませんが、みんなで一緒に食べることができる。デリバリーの選択制の場合、授業が終わってから取りに行き、順番を待って戻ってきて教室で食べるようになったら、食べ始めるときにはもう他の子どもたちは食べ終わってしまっているという状況も考えられる。

○ みんな同じものを食べることは、一見平等のようにも見えるが、最近は食べ物のアレルギーの生徒が多くて、修学旅行でも宿泊先が配慮してくれるという現状がある。一斉に食べて、アレルギーの悪い反応が出ないかなという心配がある。担任がなかなかしっかりつけない中学校の文化があるので、日々の給食の中でどれくらい確実にやれるかっていう不安がある。

○ 最近、できたものを買って食べるという中食文化が出てきているので、かなり家庭でも浸透してきているのではないと思う。情報量を十分に提供し、中身の問題、アレルギーの問題、産地の問題とか、情報をきっちりすれば、保護者の方もけっこう安心できるのではないかなという気もする。

○ 小学校ではネグレクトの場合は、せめて給食だけでも食べさせてあげようというのはよく聞く。中学校では来ても昼食的なものはないが、昼食がないから学校に来ない、ということではないと思う。

○ 知り合いでご飯も作ってもらえない状態の人がいて、1日1食の中学校の給食が救いと言っていたので、絶対に給食はあるべきだと言われる方はいた。

○ デリバリー選択制になっても、小学校と同じようにアレルギー対応してほしい。アレルギーの子どもは増えていて、いろんなアレルギーがあるので、業者に頼むと対応は難しいと思う。

○ 給食法というのを勉強してみたい。

○ これから小学校の給食室を改修する部分に関しては、食数を増やす形で改修を考えれば、実施方式にかかる必要な施設整備の金額の部分も、単独でやるより予算を抑えられることになり、親子方式ができるのではないかな。